

随

想

「あとはおまかせ安心を！」

この言葉は、私が麻酔・救急医として臨床の現場で働いていたときに、手術を受けられる患者に必ずかけていた言葉です。そして患者は深い眠りの中に入り、その呼吸と循環は私の手にゆだねられます。麻酔は単なる「眠らせる技術」ではなく呼吸を管理し、循環を安定させ、時に急変する状態に対応する全身管理であります。ほんのわずかな変化を見逃せば、取り返しのない事態につながります。そのため私たち麻酔・救急医は常に緊張感の中で患者の全身状態に意識を集中させています。一方、救急の現場では、状況はさらに過酷となり、予測不能な外傷や急病の方々が次々と運ばれ、限られた時間の中で最善の判断を迫られます。麻酔で培った全身管理能力は、こうした極限の場面において大きな力となります。呼吸管理、循環管理、そして痛みの緩和、どれ一つ欠けても、患者の命は守れません。

今、私は臨床の現場を離れ大学教授となり、救急の現場で最初に患者に接触する救急救命士を救急救命学専攻で育てています。患者を接触から医療機関への搬送までの間、救急車内でおこなわれていることは、まさしくこの全身管理となります。私の持っている全身管理の知識・技術を学生達に伝えていくことで、大学を巣立つて立派な救急救命士となった学生が「あとはおまかせ安心を！」という言葉をかけ、患者・家族の不安を払拭することで安心感を与えることができる、信頼される救急救命士となることを願っています。

高木 省治

愛知淑徳大学 健康医療科学部
スポーツ・健康医科学科 救急救命学専攻
教授

